

水田雑草の簡易発生診断にもとづく除草剤の低コスト使用法

(農試県南分場・技術部)

1. 背景とねらい

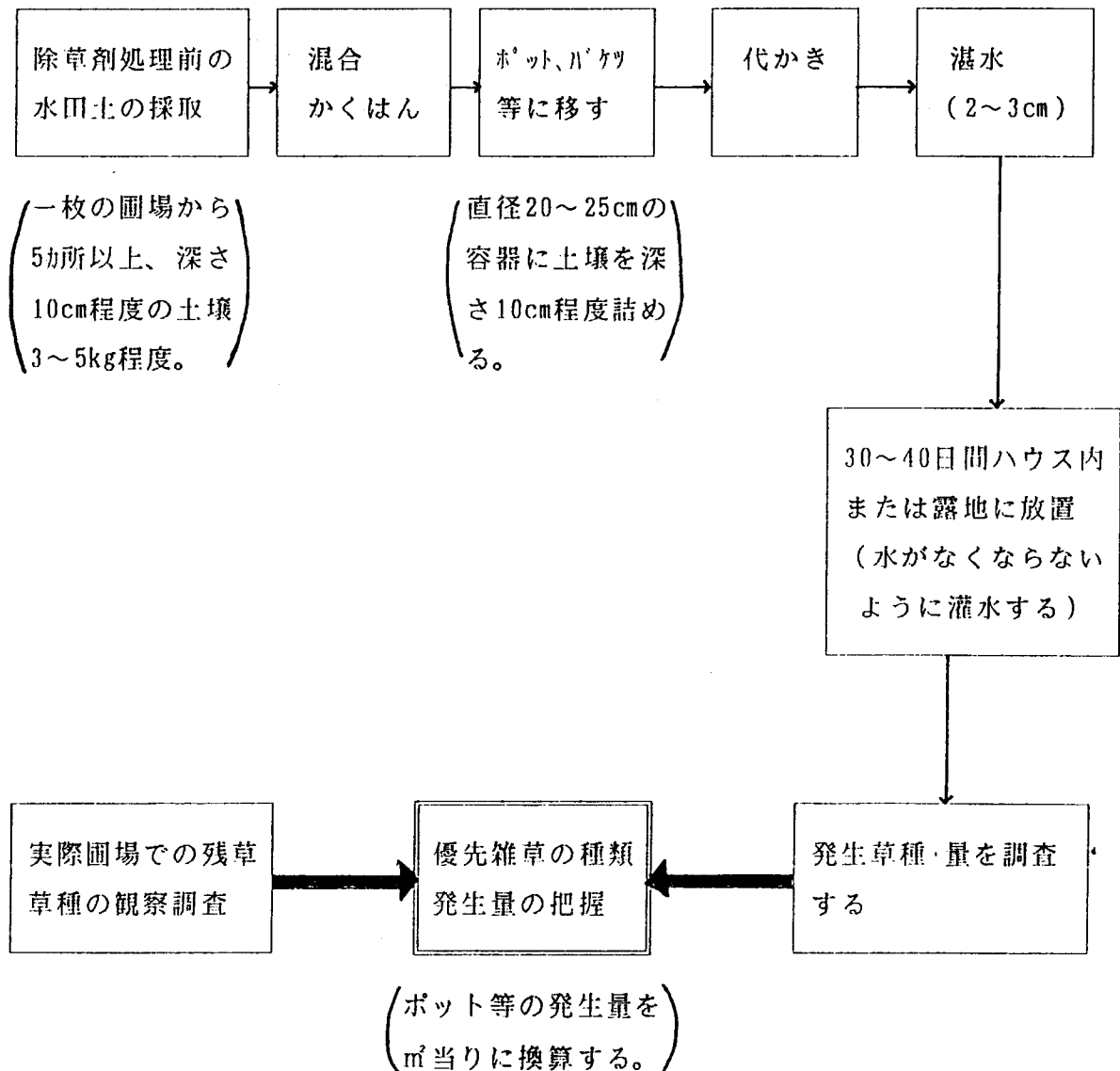
水田の雑草防除のほとんどは、薬剤によって行われている。薬剤防除の普及とともに、特定の草種が優先化し、その防除のための除草剤の過剰使用など、費用の増加傾向も見られる。

環境汚染防止、薬剤費の軽減及び散布の省力化を図るため、圃場における雑草発生の種類と量を的確に判断し、その結果に基づいた除草剤の選択、処理が必要である。

これらの状況を背景として、試験を実施してきた結果、水田雑草の簡易発生診断法及び除草剤の低コスト使用法が明かとなったので指導上の参考に供する。

2. 技術内容

(1)水田雑草の簡易発生診断法……次の手順により雑草発生のおおよその傾向を把握することができる。



(2)簡易発生診断にもとづく除草体系の選定例

No	簡易発生診断結果	圃場観察結果	除草剤の低コスト使用例	薬剤費 (円/10a)
1	雑草の発生ほとんどない ノビエ 0本/㎡ ホタルイ100本/㎡以下 一年生 広葉1,000本/㎡以下	ノビエ、ホタルイ、 一年生広葉雑草、多 年生雑草とも散見程 度。	現在使用している除草剤より 低価格のものが使用可能。 次の剤から選択する。 ア 従来型一発除草剤 イ 初期除草剤を処理し、そ の後は雑草の発生を見なが ら、中期除草剤を処理する。	ア 2,600 ~3,000 イ 初期剤: 660~1,260 中期剤: 1,200~1,300 SM剤: 1,800
2	雑草の発生多 ノビエ 40本/㎡ ホタルイ1,000本/㎡以上 一年生 広葉2,000本/㎡以上	ノビエ、ホタルイ等 一年生雑草、多年生 雑草ともに多い。	ウ 従来型一発除草剤 +ペンタゾン剤 エ 初期剤+中期剤+ペンタ ゾン剤	ウ (2,600~3,000) +(3,300~3,400) 水和剤1,700 エ (イ) + (3,300 ~3,400)

3. 普及上の留意点

- (1)雑草の簡易発生診断法は種子を繁殖源とする一年生雑草には精度が高いが、塊茎繁殖を主とする多年生雑草には精度が劣る。
- (2)多年生雑草の発生防止には、薬剤だけでなく、耕種の防除法も組み合わせると効果的である。